

芸術は、繭である



ジャン＝ルイ・ボワシエ / クワクポリョウタ / 西脇直毅 / florian gadenne + miki okubo / 石橋友也

Jean-Louis BOISSIER / KUWAKUBO Ryota / NISHIWAKI Naoki / florian gadenne + miki okubo / ISHIBASHI Tomoya

繭 / COCOON

IAMAS ARTIST FILE #10

COCOON: Thinking Ecology through Technics

技術から思考するエコロジー

岐阜県美術館 展示室2

2025.1.10 fri. - 3.9 sun. 10:00-18:00

1.17 fri., 2.21 fri. は 20:00 まで
展示室の入場は閉館の30分前まで

休館日：月曜日 Closed on Mondays (祝日の場合はその翌平日)

入場料：一般 340(280)円 大学生 220(160)円 高校生以下は無料

※ () 内は 20名以上の団体料金

※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病に関する医療費
受給者証の交付を受けている方とその付き添いの方(1名まで)は無料

関連イベント：

- 作家によるギャラリートーク 1.11 sat. 14:00-15:30 @展示室
在廊作家：ジャン＝ルイ・ボワシエ、クワクポリョウタ、フロリアン・ガデン(florian gadenne+miki okubo)、石橋友也
- 担当学芸員によるナイトギャラリートーク 1.17 fri. 18:30-19:00
- ナンヤローネアートツアー 1.19 sun. 14:00-15:30 詳細は岐阜県美術館ウェブサイトでご確認ください。
- アーティストトーク 3.8 sat. 14:00-15:30 @講堂
出演作家：クワクポリョウタ、大久保美紀(florian gadenne+miki okubo)



主催：岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

特設サイト <https://iamas.ac.jp/af/10/>



繭/COCOON: 技術から思考するエコロジー

COCOON: Thinking Ecology through Technics

柔らかな繭玉のなかで、幼虫はその解剖学的形態をことごとく脱ぎ捨て、飛翔する蝶の生として生まれ直す。

イタリア出身の哲学者コッチャは『メタモルフォーゼの哲学』の「技術についての新たな考え」において、「繭」は個体によって製造された、生まれた後の卵であり、「メタモルフォーゼ」は純粋に技術的であると説く。「繭」は、技術についてのわたしたちの理解を覆す。わたしたちは技術を、人間に都合のいい世界を作るための便利な道具、あるいは身体の延長であると考えている。いっぽう「繭」は、自らを内部で変化させると同時にそれを取り巻く世界を作り変える。

技術が人間だけのものではないと気がつけば、わたしたちは世界に対してより深く共感できる。このような考えは、喫緊の課題である今日のエコロジー問題を乗り越えるための新たな視座を与えてくれるだろう。芸術もまた、生きることに共にある「技術」である。本展では、多様なアプローチを通じて、その可能性を模索する。

ABOUT IAMAS ARTIST FILE とは

岐阜県美術館と情報科学芸術大学院大学[IAMAS]の連携事業で、本展「繭/COCOON」はその第10回目となる。

ARTISTS 参加作家

ジャン＝ルイ・ボワシエ Jean-Louis BOISSIERE (1945-)

パリ第8大学名誉教授。1980年代からメディア・アートの分野で、アーティスト、研究者、キュレーターとして活動。1997年、IAMASでワークショップを実施。ルソーの著作の解釈やモノの生と記憶を扱う作品を制作。主著に『L'écran comme mobile』など。

クワクポリョウタ KUWAKUBO Ryota (1971-)

IAMAS 教授。電子回路を素材とした「デバイス・アート」の取り組みや、光と影による内的な体験を促すインスタレーションを追究する。2010年『10番目の感傷(点・線・面)』で第14回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞。

西脇直毅 NISHIWAKI Naoki (1977-)

2007年 IAMAS 修了。ネコや縄目の文様が無限に増殖して画面を埋め尽くすような、精緻なボールペン画に取り組み。国際芸術コンペティション「アートオリンピック」審査員特別賞(建島哲)受賞(2015)。「ミクロの猫と巨大な猫」(瀬戸内市立美術館、2020)ほか。

florian gadenne + miki okubo (1987-, 1984-)

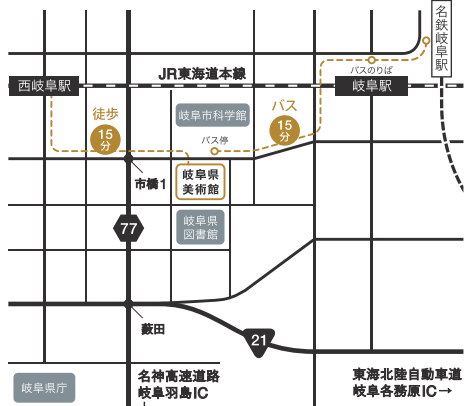
美術家のフロリアン・ガデンとIAMAS准教授の久久保美紀によるユニット。生態系の複雑性に着目し、エコロジー問題に対峙する表現活動を続ける。第10回 500m 美術館賞グランプリ賞(2023)、清流の国ぎふ芸術祭 Art Award in the CUBE 2023 入選。

石橋友也 ISHIBASHI Tomoya (1990-)

IAMAS 博士後期課程在学。生物学を学び、科学やテクノロジーの視点から、自然と人為の境界に位置する対象の性質、構造、来歴に迫る実践を行う。文化庁メディア芸術祭優秀賞(2021)、岡本太郎現代芸術賞入選(2022)など。



4. photo: Shizune Shigi photo courtesy of Utsunomiya Museum of Art



ACCESS アクセス
岐阜県美術館 <https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>
 〒500-8368 岐阜県岐阜市宇佐4丁目1-22 TEL:058-271-1313

交通情報
 JR 西岐阜駅 南口から徒歩約15分
 JR 岐阜駅または名鉄岐阜駅前からバスにて約15分



最寄りバス停
 岐阜バス 鏡島市橋線 [県美術館]
 市橋地区循環 西ぎふ・くるくるバス [県図書館・美術館]
 三里・本荘地区循環 すまいるバス [県美術館北] [県図書館・美術館]
 無料駐車場 [442台] (美術館北東 おもいやり駐車場 [6台] を含む)

- 1 florian gadenne + miki okubo 《L'Arbre-Monde》(2024) より部分
- 2 GengoRaw (石橋友也+新倉健人) 《パベルのランドスケープ》(2023)
- 3 西脇直毅 《赤色のへびとネコ》(2023)
- 4 クワクポリョウタ 《風景と映像》(2016) (撮影: 椎木静享 写真提供: 宇都宮美術館)
- 5 ジャン＝ルイ・ボワシエ 《(digital) Soba Choko》(2019-)

	2	3
1	4	5

表イメージは、それぞれの作家がかいた「〇」をもとにデザインされました。

